



ありがとうございました



「児童福祉のために役立ててください」と、ボランティアグループ YACHIROCK様から小型プロジェクターを寄贈していただきました。

きれいな花が咲きますように バラの剪定と植え替えの講習



1月19日、総合生涯学習プラザで環境緑化公社主催の緑の講習会「バラの剪定と植え替え」が開かれました。講師は、バラのプロフェッショナルであるやちよ京成バラ園の大川原清光さん。バラの植え替えに最適な時期や、剪定する時の注意点などについて、一般的なバラの育て方とは違う、何年も研究を重ねて得た知識を伝授しました。

剪定の実技では、枝を太さや生え方によって「会長」「社長」などに見立て、「社長を支える存在の枝が周りに必要なんですよ」と枝を切っていくポイントをわかりやすくレクチャーしました。



▲「どの枝を切ればいいのかしら」と相談中

今年一年の豊作を祈って「高津のハツカビシャ」

「オビシャ」として伝わる行事、「高津のハツカビシャ」が、今年も1月20日に高津比咩神社で行われました。「甲」、「乙」、「ナシ(ム)」と描かれた的に氏子が13本の矢を放って、一年の吉兆を占い、豊作を祈願する神事です。起源は定かではないものの、300年以上前から存在したという記録があります。



▲勢いよく矢が放たれるたびに、見物客から「わっ」という歓声が上がりました

弓を射た後は、「オトウケトリ」が行われ、今年の当番から翌年の当番へ「オトウ」(御神体)が渡されました。オトウは神棚に大切に安置され、また次の年へと受け継がれていきます。

選評 一首目、ナースは患者にとっては待ちわびた存在で、夜が注がれており、比喩も効いて入院中の寂しい心境を伝える。四句切れにして「ごとし」と終止形に。二首目、下の句に老境の妖しさがあり、我と我が妖しさを怪訝に思う作者。その客観性にペーソスがある。三首目、朝のウォーキングの歩調が寒さのために日ごとに速くなる。それでも作者は心地よいのだろう。下の句に独自の表現を得て体感と臨場感を出した。

やちよ川柳

八千代川柳連盟選

呪文ですだつてともうのくり返し 大和田新田 村本 礼子
遠い耳時と場合で使い分け 大和田 小川 剛毅
ハンカチに包みきれない笑い声 緑が丘西 加茂 英代
焼き餅を焼いてエステにママは行く 高 津 岡田やほこ
主婦寄ればうわさ話に花が咲く 村上団地 手塚 俊子
八方に拡げただけのお付き合ひ 勝田台 八巻ちほこ
成り行きで持った荷物が重過ぎる 勝田台 梶田きみ子
嘆くまい一冬ごとのしわの数 大和田新田 渡邊けい子
喜びは淋しさににて匂いする 八千代台西 村松和泉屋

八千代市初の女子プロ野球選手に御山真悠さんが

本市出身、初の女子プロ野球選手となる御山真悠さんが、1月18日に市長を表敬訪問しました。



▲「シーズンを通してレギュラーに定着したい」と抱負を語りました

小学3年生からお父さんがコーチをしている少年野球チームに入り、野球を始めました。途中、ソフトボールを選ぶ道もありましたが、野球をやりたい気持ちが強かったことから、中学校から大学まで硬式野球に打ち込み、昨年6月、女子プロ野球リーグの入団テストに合格。今シーズンから「愛知ディオオーネ」でプレーすることが決まりました。リーグには他に3チーム(埼玉県に1チーム、京都府に2チーム)あり、3月21日(祝)にナゴヤドームでシーズン開幕。首都圏の球場で試合がある時は近くで姿が見られそうです。

御山さんは高津出身。両打ちの外野手で大学時代には左右両打席でホームランを放ったこともある長打力と、女子の中でもトップクラスの強肩が持ち味です。今後、大きな活躍が期待されています。

歴史や文化を手取る楽しさ 八千代ふるさとかるたで遊びました



▲初めてかるたで遊んだ子ども「またやってみたい」とうれしそうに話していました

かるたには、いろは歌やことわざなどを使ったさまざまなものがありますが、ふるさとの情景などを詠んだ郷土かるたもその一つ。1月14日、勝田台図書館で開かれた子どもかるた大会では、八福神や市の花・バラなどを描いた「八千代ふるさとかるた」を使用。幼児から小学5年生までが参加し、年齢に関係なくみんなで一緒に遊ぶことができました。

2月18日(日)までくらしのうつりかわり展

郷土博物館で「くらしのうつりかわり展～変わりゆく学び舎」を開催しています。小学校で行われている、「昔のくらし」の学習をより深く学べるよう、昭和初期から使われてきた氷冷蔵庫や炭火アイロンなどの生活道具を「衣」、「食」、「住」のコーナーごとに紹介しています。生活様式が目まぐるしく変わった昭和の時代。市内でも30年代には住宅団地の造成が始まり、人口が大幅に増加。私たちのくらしや学校のあり方も移り変わっていきました。展示は2月18日(日)まで。



▲当時の学校で使用していた看板や校旗も展示。給食も再現されています

八千代歌壇

佐波 洋子選

晩秋の薄日さしこむ病床に枯葉のごときナースの足音
(八千代台東) 森野 豊作
代り映えせぬ老いの暮しにて訝しむ 夜ごとの夢の変幻自在に
(萱 田 町) 三神 哲也
わが朝の歩き日ましに速くなる寒さの鞭をびしびしうけて
(八千代台西) 元村 泰介
石路の虫喰い跡の葉陰より産卵終えし蝗螂出て来る
(下 市 場) 村越喜美子
ハロウインの過ぎたる庭に氷雨ふり居残るかぼちゃの笑い顔泣く
(八千代台北) 秋山富美子
九十三の兄送り来し新米十キロ戦後の貧しさ今も忘れず
(上 高 野) 上岡あや子
溺れるし蝗螂すくひ庭に置き草に紛るるまで見守りぬ
(大 和 田) 飯名 好子
喜寿の年一枚残るカレンダーわれ思ふほどなし幸不幸
(大和田新田) 小針 光

Twitter



URL http://twitter.com/yachicho_shi

八千代市ツイッター
防災情報・緊急情報などを
発信しています